

ゆとりある教育を求め 全国の教育条件を 調べる会 ニュース

2018. 2. 3発行

NO. 50

★総会&出版記念会報告

★春の研究会はお休み予定。

「今 学校に必要なのは

人と予算」 山崎洋介著

出版記念合評会 11月4日(土)

時間 午後1時30分～4時

会場 エデュカス東京 5F会議室

会員外の方が7人参加してくださいました。教育科学研究会での報告がきっかけで参加頂いた方が3人、会員からの紹介で学生さんが1人、2年前の埼玉冬研から2度目の参加の方が2人、そして評者をお引受け下さった制度研事務局長の植松直人さん、著者も含め会員6人の合計13人の参加で行いました。

調べる会結成から丁度12年、これまでの活動のまとめとも言える有意義な会となりました。(詳細は別紙。合評会の資料を同封します。)

合評会の後、近くのイタリア料理店で懇親会を行いました。会の締めのご挨拶を佐貫先生に頂き、参加者一同とても感激いたしました。

予定評者の久富善之先生が都合により来れなくなったのが残念でしたが、先生のおかげで出版までこぎつけたので、感謝ひとしおです。

総会と研究会は、11月5日(日)

時間 午前9時～12時 会場(同左)

3本の研究報告がありました。予定を延長して、各1時間を取り、総会は午後に行いました。(詳細は別紙)

調べる会のフェイスブックを見て参加された方があり、内容的には込み入った話だったのですが、興味を持ってくださったようでした。子育ては終わったけれども、教科書のこと、道徳教育の問題などが気がかりで参加したとおっしゃっていました。

教職員以外の市民の方とも、繋がっていけると、調べる会の活動もさらに広がっていけると思いました。

総会で決まったこと

- ①会の運営や情報公開請求に要する会費について、充実させるため、新たな会員を増やしましょう。
- ②パンフレットも、数字だけでない読めるものを工夫していきます。4コマ漫画の復活も。
- ③出版に関わる会計は、広報係りの橋口が担当。本の関連での講師料等は出版会計に入れます。
- ④役員は、引き続き留任していただくことになりました。よろしく願いいたします。

(総会資料を同封します。)

お知らせ

◆教員定数の県別分析

パンフレットを試作中

ひとつの県で1冊(小学校分8頁、中学校分7頁、小中の合計1頁、注2頁、全20頁)です。

説明を加えて、数字の意味が分かるように工夫しました。会員・賛助会員には同封しました。まだ試作中のものですので、不備があると思います。それを念頭に置いてご覧ください。ミスを発見されましたら、早急にご連絡ください。(橋口まで)

◆会費納入のお願い

会計年度は、8月～7月です。前年度分、今年度分について納入をお願いいたします。

ゆうちよ銀行

名前：全国の教育条件を調べる会
番号：01750-5-132608

正会員	年間	5千円
学生会員	〃	1千円
賛助会員	〃	2千円

合評会 「いま学校に必要なのは人と予算」

11月4日(土)、エデュカス東京において、「いま学校に必要なのは人と予算—少人数学級も考える」出版記念合評会を行いました。

東京、神奈川、埼玉、新潟、京都、奈良、宮崎から13名の参加者がありました。教育科学研究会の佐賀先生、神原先生、ジャーナリストの前屋さんの他、教職員組合の教育財政部長をつとめる先生、教職員、学生、院生など多彩な顔ぶれでした。

まずは、評者の植松直人さん(全国学校事務職員制度研究会事務局長)が、書籍の批評をしてくださいました。

この4月から義務制教職員の給与費国庫負担が都道府県から政令指定都市に権限が委譲されることにより、学校事務職員などの待遇が市職員に準じて引き下げられるところが出ていると指摘し、これまで義務教育費国庫負担制度によって守られてきた教育条件水準を維持するために、改めて制度のしくみや理念をしっかりと理解する必要があると述べました。

しかし、学校現場にいる者のほとんどが、何が問題なのか本質的な問題に目が届かないまま、臨時化の進行や長時間過密労働など、食困な教育条件のもとで働かされている。その意味で、この本の中に答えを求めることができるのではないかと批評されました。

総選挙の争点でも、「教育無償」があげられていたが、「義務教育の無償は実現済み」とされているようだ。しかし、実際には教育費のうち公費4割私費6割となっており、その認識はおかしいと指摘。

この本の最終章は、真の教育の無償について歴史や理念を簡潔にまとめており、非常に参考になるので、学習会の教材に使いたいとおっしゃいました。

その後、参加者の間で、少人数学級の評価と展望、教育予算をめぐる政府の姿勢、教育条件整備を求める運動の課題、非正規化がすすめられる現場、教育の無償をどう実現するかなどについて、活発な論議が行われました。

合評会后、有志で夕食交流会も行い、おいしいイタリア料理をいただきながら、子どもと教育について大いに語り合い、楽しい時間を共にしました。(2017年11月5日 謝辞会(スブックより))

2時間近い合評会の詳しい内容を記録した冊子を発行予定です。

送付を希望される方は、事務局(橋口)までお知らせください。

では、最後に、私から。まとめになるかどうか分からないですけど。

今、山崎さんに相談している事があって、東京で事務職員をしてみましたので、昨日も、都議会に行って傍聴してたんですけど。実は、事務職員を、東久留米市というところで、共同実施というのを始めまして。今までの共同実施というのは、ちゃんと、都の事務職員を引き上げて、一カ所に集めて事務処理をするという形だったんですけど、各学校に民間の事業者の従事者を入れるという話が出てきまして、はたして、その人にも国庫負担が出るのか。それを含めて明日も山崎さんに相談しようと思っているんですけど。

実は、国はそういう方向で動き出していて、安部さんがやってる日本再興戦略 2016 という中に、公設民営の学校というのを志向していて、これはまさに国家戦略特区なんです。

大阪市では、中高一貫の学校を再来年に作って、そこをもう公設民営にするらしくて。そこに、法律を改正して、国庫負担法も含めて改正して、国庫負担も出そうという方向でやっているみたいなんです。大阪YMCAが引き受けたみたいなんですけど。やっぱり、国自体もこういうふうに政策的に動いてますし。各自治体でも、国庫負担の担当者はスゴイ量の書類を文科省に出さないと、人件費自体は県にももらえないんですけど、それをしている人と県の政策をやっている人とは全く違う人なので、人件費は貰うけれども、実際に使う所は、県の考え方で使うという事なので、結構これから大胆に地方分権の中で、変わってくるかなって感じはします。大変な時代に入っていくなと感じています。

では、今日は遠くからもいらっしやいましたし、たくさんの皆さんに来ていただいて合評会ができましたので、ありがとうございました。また、色々課題も会の方に頂きましたので、山崎さんと共に、3冊目の本が出来るかどうか分かりませんが、みなさんにまたご紹介できるような研究を進めていきたいと思っておりますので、会の方へご援助をぜひよろしくお願いいたします。では、これで今日の合評会を終わりたいと思います。ありがとうございました。

<事務局より： 合評会の資料の裏に、本の正誤表を付けていますので、ご覧ください。>

愛知県教育労組のフェイスブック より

読めば賢くなる。賢くなれば人に広めたくなる。人に広めればみんなで使いたくなる。つまり運動が進むと言うことです。組合幹部だけではなく、すべての人に読んでもらいたい本を見つけました。「いま学校に必要なのは人と予算—少人数学級を考える」山崎 洋介

いま学校 に必要なの 人 予 少人数学級を考

赤石仙人 がレビューを書きました

アマゾンへの書き込み より

2018-01-25

現職教員による研究・実践の書

本書は、山崎 洋介 (著), ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会 (著)『本当の30人学級は実現したのか?—広がる格差と増え続ける臨時教職員』(自治体研究社、2010/3)のバージョンアップ版である。

そして、言うまでもないが、この9年間余りの政策動向やデータが更新されている。さらに、「ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会」が調べ、拡げる活動を通して成熟してきた「本当の30人学級」=「教育条件整備」=「公教育費増額」の政策提言が行われていることも本書の特徴であろう。

「本当の30人学級」の実現の要は「学級編制の最低基準」の法定(=公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の抜本的改正)にあるが、本書では、その内容を30人学級を標準とするだけでなく、国庫加配定数の基礎定数化、「乗ずる数」(専科教員数等)の改善、非正規・再任用教職員の正規教員化など、より具体的に論じている。

地方裁量の少人数学級は、非正規雇用による場合が殆どで、評価の難しい面もあるが、国庫加配の活用が最も合理的な方法の一つとして取り上げられている。

学級編制改善の財源として、義務教育費国庫負担制度の改善に期待が寄せられている。確かに、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」は、義務教育費国庫負担法と不可分のものとして制定されたものであるが、二つの法律は相対的に独自のものとして検討する必要があるかもしれない。

とまれ、本書は座学の研究者による研究書ではなく、現場の教師の事実と体験に基づく迫力ある研究・実践の書である。須く、教職員・父母・研究者の教育財産としたい。そして、少人数学級を考えている方には、是非とも一読することをお勧めする。

「ヒロシマの子育て・教育」2017. 11月号に掲載された 曾田陽子さんの書かれた記事です。

新刊の紹介 2017年9月刊

「いま学校に必要なのは人と予算」

少人数学級を考える」

山崎 洋介 (著)

ゆとりある教育を求め
全国の教育条件を調べる会

新日本出版社

教員の多忙化が叫ばれ、「チーム学校」などと教師をサポートする教員以外の人材の投入がそこそこの予算を使って行われている。その意義を必ずしも否定するものではない。しかし本当の意味での教育条件改善のためには、少人数学級制により正規の教職員を増やしていくことこそ必要なのだということは言われ続けてきた。教育現場もその実施を「切望している」。にもかかわらず、実現に至らないのはなぜか。

本書は、「少人数学級制を実現・拡大し正規教員を増やしていくために、現状と制度の仕組みについて分析し、改善の方向を提案する」立場で、詳細な法制度の変遷と財政のしくみ、実態の調査が行われている。わかりにくい義務標準法などの教職員定数問題や教育予算についての粘り強い調査結果が独自の視点で分析され、少人数学級の実現を困難にしている背景を解き明かす。

本書は教育条件の改善のための粘り強く地道なこの会の活動の成果である。そして、現場の先生にとっても、問題を整理し展望を持てるものにつながるだろう。この会の活動はもっと知られるべきものだと思う。

そして、今日の情勢を「政府自ら『教育の無償化』を政治的テーマとし始めたことは日本の教育条件整備を充実させるチャンスである」と述べている。

山崎さんのフェイスブックへの投稿より

Kon Tom さん

今読んでいます。正確な用語、文科省のデータを使い「なぜ？」の疑問が晴れてきます。少人数学級を求める人は、この基礎知識を身につけて運動しないと、狡猾な行政に騙されます。お手元に一冊。

「宮崎県教職員の会ニュース」2018. 1月8日号より

誰もが賛成する『教育共闘』を (文: 池山義秀)

新春学習会の講師: 山崎洋介さん。

学校(教育)は「予算」(お金)で出来ている。教育運動に携わる者は、予算に強くないと! 予算は、足し算・引き算・掛け算・割り算の四つの計算で出来ているので、恐れずに学ぼう! (中略) 関西弁で、面白くわかりやすい学級定数のお話でした。

学級定数(教育予算)の仕組みを学んで、多くの人と手をつなぎ、誰もが賛成できる法律をつくる運動つくりませんか? おもしろ
おませ!

11月5日(日) 午前9時～12時 調べる会研究会

参加者 8名

研究発表

- ◆小宮 「東久留米市立小・中学校の学校サポート業務あり方検討委員会報告について」の問題点
- ◆山崎 「教員勤務状況調査における職別授業時間数と、教員配置との関係」
- ◆橋口 「長野県を例として、標準定数と配置実態とのギャップ及び担任外教員定数の使用状況」

それぞれについて、各1時間をかけて討議しました。

感想としては、「何を組合として調査しなければならないかが見えてきた。」「難しく、細かい点は理解できなかったが、興味がわいた。」「特別支援学校の事をもっと詳しく知りたい。」などがありました。

総会は、予定を変更し午後に行いました。総会資料を同封しましたので、ご覧ください。

夏の研究会 & 総会は福島で

とき 2018年 8月8日(水) 9日(木)

ところ 磐梯熱海温泉 浅香荘 TEL 024-984-3157
FAX " " -0258

福島県郡山市熱海町熱海5丁目40
(教育公務員弘済会施設 組合員は割引あり)

※ 10日(金)には、被災地の案内をさせていただく予定も
検討中です。(別途申し込みが必要)

会員の齊藤毅さんのお力により実施できることになりました。お礼申し上げます! (部屋の確保もしていただいています。)

＝ 編集後記 ＝

本の合評会から、3ヶ月もたての発行となり、申し訳ありません。また、パソコンの都合により、手書きの記事もあり、読みづらい点、お許しください。もっはら手書きの時代を思い出しながら作りました。
(橋口)

今年は、春の研究会は実施しないことになりました。事務局長の山崎さんが、今年は講演などで外出となりそうだからです。1月は宮崎、2月は沖縄、7月は名古屋と予定が入ってきています。その分、夏の福島での研究会を楽しみに待っています。ください。